
日本数理科学協会会報

36 / 2004 . 11

編集委員 藤井正俊 (委員長)/ 藤井淳一

目次

- | | |
|---------------------|---|
| * JAMS 拡大運営会議記録 | * 日本学会議会員候補の依頼 |
| * JAMS2004 年度総会記録 | * IVMS(Distance Symposium) の新しいシステム |
| * 2005 年 JAMS 年会 | * International Videoconference 実行の為の予算 |
| * SCMJ 投稿者各位へ | * 会費会計事務の簡素化について |
| * 学会ユーティリティーセンターの破産 | * 会員名簿の up-to-date について御願い |

JAMS 拡大運営会議記録

藤井正俊・藤井淳一

日時 2004 年 9 月 16 日 (木曜日) 10 : 00 ~ 12:00

場所 神戸大学・神大会館

・定例理事会 議題

1. 年会プログラムについて

船越俊介大会委員長の下で、昨日より研究会が開催された。準備段階では協会との連絡がうまく取れず、直前の変更等があり、部屋の確保等で船越大会委員長にはご迷惑をおかけしたが、順調に開催されていると報告があった。今後協会 HP などを十二分に活用して、開催担当校および参加者に迷惑がかからないように便宜を図りたい。

2. 学会会議よりの通達、文部科学省よりの通達 (石原先生)

詳細は前回会報 (35 号) にあるが、4 月 17 日付けで学術団体登録がなくなり、従来より自由度が高くなった。学会名鑑は現行は 2004-2006 年度版となっているが、今後も発行の予定。名簿については、この際じっくりと作り直してもよいだろう。

また、文科省の定期刊行物補助については、手続きの煩雑さの割りに補助額が少ないので、引き続き申請しないことにする。科研費についても協会宛にもきているが、各個人で対応可能なので、協会としては申請しない。以上、報告・了承された。

3. 交換誌整理資料 (石原先生)

35 号の渡辺先生・石原先生の記事にあるように、交換誌制度の見直しを進めて、西田先生の下で原案作りをしている。また、協力校にある交換雑誌等のとりまとめを行っているので、リスト自体の整理はまもなく完了できる。2006 年の半ばぐらいまでに、全体を整理しなおし、協会が交換・配布の一括処理を行い、2007 年からは、以下の新方式に完全移行したい。

現在交換誌は重複を含めて 140 程度あり、別紙資料の AMS の 124 誌からの選択も含めて、7,8 割の価格で、協力校に引きとってもらう形にする。それによって、従来協力校からの協賛

金の代わりに充てる。また、従来の3協力校以外に、このシステムに岡山理科大学・東京理科大学にも参加していただく。独立行政法人化が公立校でも始まることもあって、新制度の変更に収支上の不安がないとはいえないが、これを機に新しいシステムに移行せざるを得ない。幸い、SCMJ誌の special issue や special section、international plaza 等は特色があって人気もあるので、これらを軌道にのせていきたいとの方針が出され、了承された。

4. JAMS 研究集会

会報 34 号にあるように、今後集合型 (Assembly type) の年会を

2005 年 阪大基礎工 稲垣宣生 委員長
2006 年 阪大工 石井博昭 委員長
2007 年 大阪教育大 藤井正俊 委員長

で開く予定は変更ないが、遠隔型については、会報 35 号の記事にあるように、SCS は基本的に運用不可能となり前提条件が変わったので、2008 年以降は白紙となった。今後研究集会の持ち方を検討していく必要があり、それぞれの方式のメリットを活かしていきたい。なお、米田理事長からも研究会関係の決定事項については、協会 HP で速やかに公開した方が良いとのご指摘があった。それも含めて、円滑な運営ができるよう検討していきたいということで、了承された。

5. 国際交流の新しい展開

SCS の使用断念と同様、会報 35 号に報告があるように、ソニーの PCS-1 を使った遠隔会議も、高性能であるにもかかわらず結局同じ機種間の接続さえうまくいかず、断念せざるを得なくなった。少し性能は劣るが、回線の遅い相手先国もあって、TANDBERG6000 を利用した遠隔会議については実績も十分持つ ONC (大阪大学中之島センター) を利用して遠隔会議を開催していく予定で了承された。

6. 海外共同研究者の拡大を図る件

3月と5月に開催予定の遠隔会議において共同研究の拡大を図っていきたい。IVMS (International Video Conference of Mathematical Science) の宣伝を SCMJ 誌の green page で行い、IVMS 2006、2007、2008 についての

“Call for Proposals and Organizers” を掲載する。IVMS スローガン” Getting together easily online from the world …” の下にならばしていきたいとの報告があった。

7. 会員名簿・20 期役員について

新名簿作成の後に、役員を選ぶことで了承された。

8. 会則の変更について

別紙のとおり、総会成立が難しい中、協会を円滑に運営するために会則の大幅変更をしたい。運営細則で、会報による議案提示などの具体的な運営方法を定め、必要に応じて容易に変更可能な形にしたいという方針で了承された。細則については、別途検討する。

9. その他

研究集会の責任者について、後継者育成の意味でも若手への引継ぎ (連絡先も含めて) など各研究部会で明らかにしていただきたいとの要望があり、認められた。

JAMS2004 年度総会記録

藤井正俊・藤井淳一

1. 2004 年度決算、事業中間報告 (石原先生)

会報にも掲載済みの遠隔会議について、「SCS 使用」「ソニー PCS1 使用」の部分が不可能になり、廃案となった。今後は、テストが既にされていて十分実績のある ONC のシステム (TANDBERG6000) を利用していくことになった。雑誌の事業も順調で、それ以外は例年通りという報告が了承された。

2. 2005 年度予算 (石原先生)

これも会報 34 号に掲載済みで、上記以外の変更はない。ただ、2006 年度をめどに、会員の page charge を \$8/page にして、非会員の \$16/page と区別を付けたいとの報告があり、了承された。

3. 会則変更

これについては、上記理事会どおり了承。

4. JAMS の財政について

独立行政法人化による影響は非常に大きいですが、不確定部分が多く注意が必要であるが、協力校の協賛金を交換雑誌等を協会で一括管理する方式の下、雑誌購入によるものに変更していく。また、会員名簿を刷新し、未納会員には督促して収入を確保する。special issue や International Plaza といった特色を前面に出し、SCMJ 誌の販売促進をする。また、遠隔会議で海外会員の拡大にも努力するなどの案が了承された。

5. その他

昨今は研究集会の数や種類も増加し、独立行政法人化の影響もあって雑用も格段にふえ、会議の時期調整が非常に難しくなってきた。それで、研究集会の時期については柔軟に対応し、各研究 Group の都合に合わせて開催し、「JAMS 研究集会」という形で、年会扱いにしていきたい。今後、そのような形で、各分野の研究会がいろんな時期に開催されることも多くなるので、協会の HP を活用して、会員の皆様や会議に参加される方々の便宜を図っていきたい。また、各研究会の存続のためにも引継ぎをはっきりさせて、代表者を明確にしていきたい。当面の方針として、以上のことが了承された。

2005 年 JAMS 年会

年会実行委員長 稲垣宣生

研究グループの代表者の皆様へ

2005 年度 JAMS 年会における研究部会開催の呼びかけを致します。

研究グループの代表者の皆様で来年度の年会で開催予定の研究部会につきまして、年会運営に必要な下記の項目につきましてお知らせ下さい。よろしくお願い致します。

(1) 研究グループ名および代表者名

(2) 研究部会名 (シンポジウム名)

(3) 開催日数

(4) 参加者予定人数

(5) 連絡先

(6) 注意事項または要望事項

年会連絡先：2005 年度 年会実行委員 稲垣宣生

〒 560-8531 豊中市待兼山町 1-3 大阪大学大学院基礎工学研究科

e-mail:inagaki@sigmath.es.osaka-u.ac.jp

なお、9 月には次の学会が予定されています。

(1) [日本統計学会]

場所：広島プリンスホテル 日時：9 月中旬

(2) [日本数学会]

場所：岡山大学 日時：9 月下旬です。

SCMJ 投稿者各位へ

SCNJ 編集部

投稿受付の日付は、論文にとって重要なものであり、SCMJ 誌は特許局に正式登録をしている雑誌です。(ついでながら、JAMS 研究集会の講演も登録対象になっています。)

SCMJ への投稿者は、Editor への投稿の際、JAMS の事務局に必ず論文の copy 1 部と submission form とを送って下さい。事務局が著者から論文を受け付けた日が、受付日になります。(受付日は Editor の受付日とは、直接の関係はありません。)

次に Form ですが、著者の Sign 入り Form が 214 項の Page Charge の支払確認の文書になります。(P.C. が払えない原稿は、原則として受取れないことになっています。)

超多忙の事務をこなしている編集事務方に、Form や受付日、受け付け番号のごたごた等で余計な手間暇をかけさせる投稿は、厳に避けて下さい。

なお、Editor 各位は、この点、著者をよろしくご指導の程、お願い致します。

学会ユーティリティーセンターの破産について

JAMS 事務局

平成 16 年 10 月 20 日付けで、東京地裁民事部から、学会ユーティリティーセンター破産決定の通知の Fax が、民事部第 20 部の 3 人の裁判官名で送られてきました。

又その 2 日後の 10 月 22 日付けの Fax で、ユーティリティーセンターの破産管財人から、財団法人日本学会事務センターが 8 月 17 日破産宣告を受け、業務を停止した為、事務センターの業務の委託を受けて居たユーティリティーセンターも資金繰りに困って、10 月 20 日破産宣告を受け、一切の業務を停止した。については JAMS がユーティリティーセンターに依頼していた学会誌の発送業務について、早急に新しい依頼先を決定されたい、との事でした。

JAMS では、Vol.60, No.1 まで SCMJ 誌の一定部数の配布を同センターに依頼していましたが、Vol.60, No.2 以降は、事務局で直接配布していますので、失われる債権はなく、被害を蒙っていないのですが、この事を会員各位にお知らせしておきます。

日本学術会議会員候補者に関する情報提供について (依頼)
JAMS 事務局

日本学術会議会員法の改正によって、日本学術会議が自ら候補者を選考する方法となりました。広く学術研究団体等から候補者情報を収集し、「候補者選考委員会」が選考する事となっております。

それにふさわしいと考えられる科学者の情報の下記提供依頼が JAMS にありました。

記：貴団体に提供を御願する科学者情報の数

情報提供総数		
内、産業人、実業家、若手研究員、 女性研究者の合計（実数）	2 名以上	4 名以内
内、女性研究者の数	1 名以上	
内、地方在住者の数	2 名以上	

JAMS では現在、大学等機関の管理職にある方々10 名で、取り敢えず仮称「数理科学学術振興委員会」づくり、選考にあててもらおうことにしました。

ご関心のある方は詳しい資料の送付を JAMS 事務局に申し出てください。

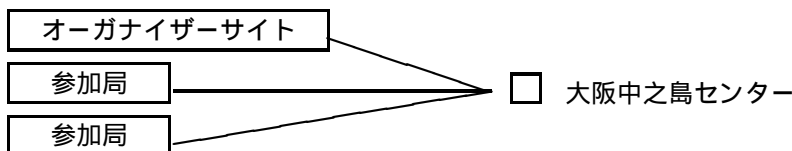
IVMS(Distance Symposium) の新しいシステム 国際交流委員会

1. 大阪大学中之島センター (O.N.C.) の新しいシステムは、ソニーの PCS-1 に比べ、海外接続先が大幅に改善されています。

2. 参加大学等の必要な設備は望ましい順に、以下 (1),(2) 又は (3) です。

- (1) Video Conference 会議室
- (2) Distance Learning(遠隔教育) 実施設備
- (3) Computer Center に可能な設備

これらの1つを利用して、下図のように、大阪中之島センターを経由して繋がれます。



また、回線としては、ISDN か IP が使用可能です。但し、ISDN を使う site は 1 箇所に限ります。

3. 2006,2007 及び 2008 年度に開催計画がありましたら、JAMS 事務局まで申し出て下さい。
4. システムの詳細は、Scientiae Mathematicae Japonicae Vol.60,No.3 を参照して下さい。
5. Digital Symposium(DS) は、接続端末の設定や作動環境で、その鮮明さや確実性がいろいろあり、事前に接続テストを行ってみて、納得の上使用する事が欠かせない事柄です。この為には、(1) Organizer の局と ONC との間の最初の接続テスト、次に催行が決まった DS について 参加希望局と OCN との間の第 2、第 3 のテストが欠かせないのが IT 技術の現在の実状の様です。

International Videoconference(Distance Symposium) 実行の為の予算について

JAMS 国際交流委員会

2004 年度に計上していましたが、Videoconference 用のソニー PCS-1 の購入費 300 万円は、阪大 ONC を使わせて貰う事で、執行しない事になっています。ついては、この予算を、Videoconference を実行される、海外及び国内の遠隔 site の Organizer 及び各遠隔参加局に、System の実施費 (System の利用費、Operator への交通費、その他) に充てて頂く為に、各研究 group の 1 unit(午前、午後、夕方の各 4 時間) 1 参加 site あたり \$500 (5 万円) を、Videoconference 実行補助費として、Organizer、及び参加 site の Co-organizer に宛てて送る案を検討しています。

猶 JAMS 国際交流委員会事務局としては、上の交流の補助費の外に、(1)System 調査のお手伝い及び (2) 研究会の announcement,(3)abstract, 予稿集の WWW への掲載等 (1)(2)(3) を致します。

会員名簿の up-to-date についてお願い

JAMS 事務局

3 年に 1 度の会員名簿の更新の時期になっています。日本数理学協会の内会員の交流を進める為、今回から国内会員の方には日本語での Data と共に、英語での Data も名簿に載せて頂き、英語の Data を使えば内外会員全部が交流できる様にしたいと存じます。

ついては、下記の 2 つの Data

- (1) 日本語データ (英語データの日本語 (漢字での記入))
- (2) 英語データ (Newsletter 2page 2.update の頁) を

1. Jams Home Page <http://www.jams.or.jp/hp/update.html> に入れて click して頂くか、
2. E-mail で pgp7j@jams.jp 宛に御送り頂くか、
3. 郵送で JAMS 事務局宛御送付頂くか

以上 3 つの中のどれかを御選択頂き、11 月 15 日迄に御送り願います。

会費会計事務の簡素化について

JAMS 事務局

現在の4年会員制度は、取扱い事務が大変複雑になるので、之を廃止し、次の方針で会費会計事務の簡素化を2005年より実施します。

会員各位の御理解と御協力を御願い致します。

改定骨肢は、3年毎の会員名簿改定の時に、3年会員の3年会費とSCMJ誌(プリント版)購読を希望される方への購読価格のdiscount(3年間分の前払)で、名簿改定年以外の年度は、単年度会費だけ受け付ける制度です。具体的には

(1) 4年会員への新加入及び更新は、2005年以降受け付けをやめる。

現在の4年会員の方々は、4年会員期間の終了まで旧来通りの扱いをする。

(2) 新たに3年会員制を加入及び更新年度を $2005 + 3N$ ($N = 0, 1, 2, \dots$) に限定して発足する。(2005 + 3N + 1)年 又は (2005 + 3N + 2)年の新加入及び更新は 単年度会員のみを御願います。

(3) 4年会員のSCMJ誌プリント版の購入費のdiscount制は、4年会員期間の終了と共に廃止する。新設の3年会員の方々のSCMJ誌プリント版の購入費discountは、年間購読費(6冊分)5000円、3年間分(15000円)の前払を御願います。3年会員の方の単年度のみのSCMJ誌の購入については、discountを適用せず、1年会員の購読費と同額を御願います。

Membership Dues for 2005

Japan	Overseas (Reciprocity members)	
A1 : ¥7,000	F1 : US\$50	F3 : US\$120
A3 : ¥18,000	S-F1 : US\$30	S-F3 : US\$70
S-A1 : ¥3,500	D1 : US\$30	D3 : US\$70
S-A3 : ¥9,000	S-D1 : US\$20	S-D3 : US\$50

SCMJ 購読費

	Regular 1-year m.	Regular 3-year m.	Author mem.	Temp. mem.	Inst. mem.	List Proces
Print/year	¥6,000 \$60	¥5,000 \$50	¥6,000 \$60	¥18,000 \$180	¥33,000 \$300	¥45,000 \$400
Print/issue	¥1,000 \$10	¥1,000 \$10	¥1,500 \$15	¥4,500 \$45	—	—
Online/year	Free	Free	¥6,000 \$60	¥12,000 \$120	—	—
Online+Paper /year	¥6,000 \$60	¥5,000 \$50	¥9,000 \$90	¥25,000 \$250	¥45,000 \$420	¥57,000 \$520

送料は別途。

JAMS 会員募集

JAMS の出版物： JAMS は、創刊より半世紀、国際的に高い評価を得ている *Mathematica Japonica* (M.J.) と、その姉妹誌で電子 Journal と Paper 誌を持つ *Scientiae Mathematicae* (SCM) とを発行してきました。両誌は、合併して”21 世紀 MJ/SCM New Series ”*Scientiae Mathematicae Japonicae*(SCMJ) として、電子版は 2000 年 9 月より、印刷版は 2001 年 1 月より、年間 6 冊、1200 頁の出版しています。

- 1) Editorial Board には国内だけでなく、海外の著名な研究者 40 名が参加している。
- 2) 世界の research group に論文が紹介され、積極的な交流が推進されている。
- 3) Editor を窓口として直接論文を投稿できて、迅速な referee、及び出版が得られる。
- 4) 世界各国の図書館へ広く配布されている。
- 5) 有名な数理科学者の original paper や、研究に役立つ survey が毎号載せられている。
- 6) M.J. は世界の有名数理科学者による、極めて興味ある expository paper を毎号 International Plaza 欄に掲載している。
- 7) 投稿論文は accept 後 (又は組版後) 待時間 0 で発行されます。JAMS の研究集会: 研究仲間が、ゆっくり時間をかけて、発表、討論をする特色ある研究集会を毎年行われ非会員も含む多数の参加者の、活発な研究交流の場となっている。又、JAMS 学術賞、清水賞の賞講演等、最近の研究 frontier の presentation が行われている。

JAMS の会員の特典

1. SCMJ 電子版の購読 (print out も含む) 無料, 2. SCMJ print 版の少額での (下表 1) 購読, 3. page charge の discount (下表 2)

表 1

	正会員	著者会員	個人購読会員	機関購読会員	定価
Paper	¥6,000 USD 60	¥6,000 USD 60	¥12,000 USD 120	¥33,000 USD 300	¥45,000 USD 400
Online	Free	*¥6,000 *USD 60	¥12,000 USD 120	/	/
Online +Paper	¥6,000 USD 60	¥9,000 USD 90	¥20,000 USD 200	¥45,000 USD 420	¥57,000 USD 520

表 2

	Member	Non Member
Paper : P	¥3850 (US\$35)	¥4450 (US\$43)
T _E X : T	¥2200 (US\$18)	¥2800 (US\$26)
Js : Js	¥1100 (US\$8)	¥1700 (US\$16)

2004 年の会費は次のようになります。

表 3

Categories	国内会員	海外会員 \$ 建て	途上国会員 \$ 建て
単年度 A 会員	¥7,000	US\$50	US\$30
3 年 A 会員	¥18,000	US\$120	US\$70
単年度 S 会員	¥3,500	US\$30	US\$20
3 年 S 会員	¥9,000	US\$70	US\$50

但し A 会員は正会員をさし、S 会員は学生会員と高齢会員 (70 才以上) をさします。

日本数理学協会

Japanese Associations of Mathematical Science
〒590-0075 堺市南花田口町 2-1-18 新堺東ビル内
Tel(0722)22-1850 / Fax(0722)22-7987
e-mail: member@jams.or.jp URL <http://www.jams.or.jp>